

湖北



オリジナルビールを手にする長浜観光協会の岸本会長

湖北の新春の風物詩「長浜盆梅展」にちなみ、梅の実を使ったオリジナルビールが登場した。

長浜観光協会（岸本一郎会長）と「長濱浪漫ビール」（長浜市朝日町）、クラフトビールを製造している「ヒノブルイング」（日野町）の3者が企画。市民にもビール作りに参加してもらおうと、各家庭で漬けている梅酒の梅の実を募り、副原料として使用。カットした梅肉をビールに漬

け込んだ。

「長濱浪漫ビール」の奥村太ビール製造部長は「梅の香も感じられるフルーティーな味わいです」と仕上がりに自信をのぞかせる。オリジナルビールの名称は、「盆梅展」とビールの種類「バイツェン」を合体させた「ボン梅ツェン」。

「ボン梅ツェン」は「長濱浪漫ビール」のレストランでグラス（280ミリ、税別650円）で提供している。

【長浜通信部・若本和夫】

青い光に感謝の思い 「えきまちテラス長浜」

長浜



夜空に青い光が輝く「ブルーライトアップ」

JR長浜駅と複合商業施設「えきまちテラス長浜」をつなぐペDESTリアンデッキ（空中歩廊）一帯で、約2万個の青い発光ダイオード（LED）電球が夜空を照らす「ブルーライトアップ」が催され、駅利用客らの目を楽しませている。2月28日まで。

「えきまちテラス長浜」を運営する「えきまち長浜」は例年の冬は色とりどりのイルミネーションで、夜間の駅周辺の風景を演出しているが、今シーズンは、最前線で新型コロナウイルス感染症と戦う医療従事者に感謝の思いを伝えたいと、青い色で統一した。新型コロナウイルスとの戦いも1年を超えたが、同社の担当者は「ブルーライトアップには、コロナ禍からの一日も早い回復を願う気持ちも込めています」と話している。点灯は毎日午後5〜10時。

【長浜通信部・若本和夫】

湖東

彦根

舟橋聖一文学賞

彦根市は12月23日、新刊小説を対象とする第14回舟橋聖一文学賞に澤田瞳子（とうこ）さん（43）の「駆け入りの寺」（文藝春秋）を選んだと発表した。江戸時代、元皇女が住職を務めた比丘尼（びくに）御所が舞台。離縁を望む女が飛び込んできたり、総門の前に赤子が置かれたりするエピソードを7編収めている。澤田さんは京都府在住。13年に「満つる月の如し」で新田次郎文学賞、16年に「若冲」で



澤田瞳子さん＝文藝春秋提供



福島優香里さん＝本人提供

親鸞賞を受けている。

また13〜30歳を対象に公募した第32回舟橋聖一顕彰青年文学賞には、福島優香里さん（26）の「りいちゃん」が選ばれた。主人公、母、祖母3

者の葛藤を、「女という性」をテーマにして描いている。福島さんは埼玉県ふじみ野市在住のパート従業員。

【彦根通信部・伊藤信司】

鳥居本学園募集中 彦根市立小中一貫校

彦根

彦根市鳥居本町にある市立小中一貫校「鳥居本学園」は2021年度の入学生を募集している。市内在住で同年度に小1または中1になる児童生徒が対象。希望者は志望動機などを書いた「プロフィール票」と願書などを同学園に提出する。書式はホームページ（<https://www.fureai-cloud.jp/torimoto-hiko>）からダウンロードできる。応募締め切りは1月25日。問い合わせは同市学校教育課（0749・24・7973）。

同学園は15年度に発足。小学校での専門性の高い英語、算数授業▽小規模校ならではの強みを生かした教育▽鳥居



地元の旧家であった中学生の茶道体験

本の豊かな自然、人を生かした教育——などを掲げている。昨年12月には中学生が中山道鳥居本宿跡の旧家で、茶道体験も楽しんでいる。

【彦根通信部・伊藤信司】